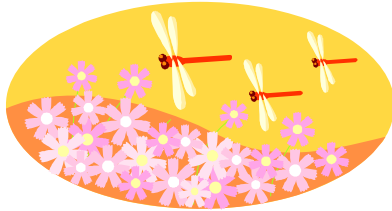


LIFE TIMES



平成23年11月1日（火）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第96号

〔目次〕

1. 2011年度 MCLC防災訓練
2. 事業用自動車における交通事故傾向
3. 羽田国際貨物ターミナル昼間運航へ
4. LIFE現場活動レポート Part5 「守谷営業所総元請化までの取り組み」
5. 場所自慢 Part2 ～第24回 守谷営業所～
6. 「IT pro EXPO 2011」基調講演レポート
7. モンテカルロシミュレーションによる戦略的リスク
定量化セミナーレポート



1. 2011年度 MCLC防災訓練

当社では、物流リスクへの対応として防災対策の強化に取り組んでいます。今年度も9月～10月にかけて、各支社・油槽所にて総合防災訓練を実施しました。多いところでは今回が38回目の訓練となる場所もあり、どの場所も今までの知見に工夫を加え、万一の事故に迅速かつ適切に対応するための本番さながらの訓練となりました。

各場所の主な訓練内容は「基本規律訓練」「屋外消火栓操法訓練」「ローリー積荷漏洩事故想定訓練」などとなっております。

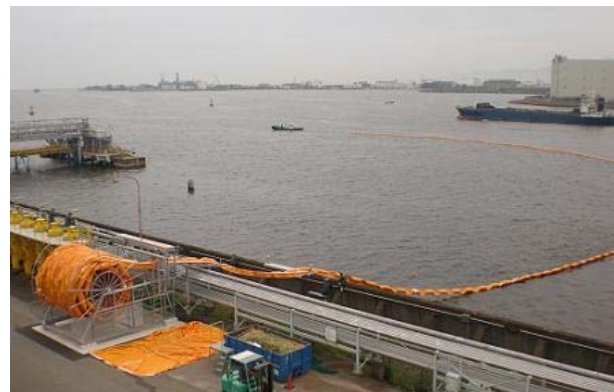
また、訓練は当社の他、場所を管轄される消防署、業務に携わっていただく協力会社の方々と合同で実施しています。こうすることで実際に事故が発生した場合の協力体制を確認し、不慮の事態に備えています。

防災訓練実施日

9月16日	川崎油槽所
9月22日	尼崎油槽所
9月30日	四国支社
10月14日	鹿島支社
10月14日	九州支社
10月21日	中国支社
10月28日	中部支社



消火訓練 風景



オイルフェンス展張訓練 風景

2. 事業用自動車における交通事故傾向

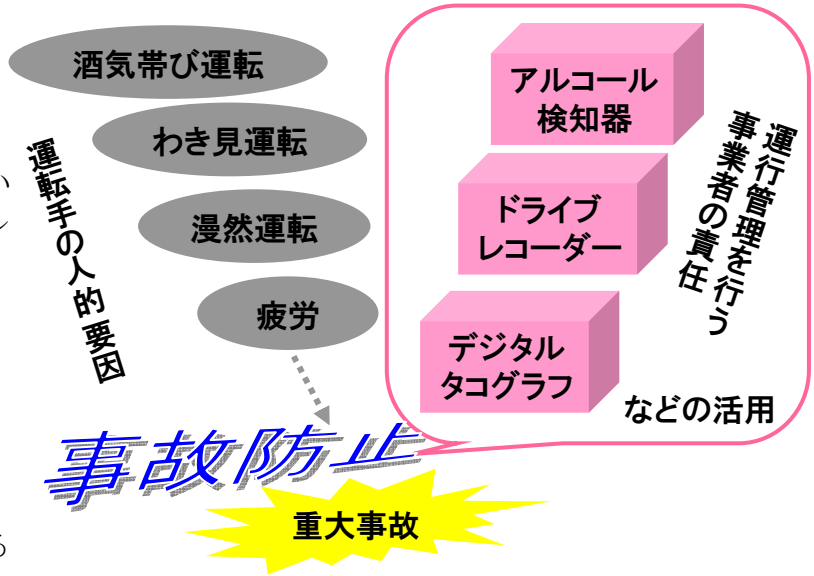
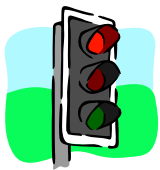
2010年の交通事故による死者数は4,863人で、10年連続の減少となり、2004年に過去最悪を記録した交通事故発生件数及び負傷者数も6年連続で減少となりました。

トラックやバスといった「事業用自動車」の交通事故については、その傾向・要因の分析が国土交通省によって行われています。その中では、重大事故の再発防止の参考になる10の事例がまとめられており、本年は追突事故が多く取り上げられました。そしてそれらの発生要因としては、漫然運転、運転者の疲労、わき見運転、酒気帯び運転、などが挙げられています。又、事故は運転手の人的要因もありますが、運行管理を行う事業者の責任の大きさも改めて指摘されていました。

そのため、トラック・バス業界などでは近年「ドライブレコーダー(※1)」や「デジタルタコグラフ(※2)」等を積極的に導入し、運転手への安全教育に用いたり、飲酒運転根絶のため「アルコール検知器」の使用を徹底するなど、運行管理の高度化で事故防止に力を注いでいます。

※1: 事故の瞬間の映像やブレーキ操作等の記録を保存する装置

※2: 運行記録計がデジタル化され、運行データを素早く正確に処理できるようになったもの



3. 羽田国際貨物ターミナル昼間運航へ

国土交通省は、9月10日に羽田空港の昼間時間帯（午前7時台～午後9時台）における国際貨物チャーター便の運航を可能とする事を決めました。就航先については、国際旅客定期便の運航が可能な空港を原則としつつ、より貨物取扱量の多い空港への就航を可能とするため、それらの空港と同一都市圏にある空港についても運航を可能としています。

現在、昼間時間帯は旅客便を優先し、貨物便は定期便、チャーター便ともに運航が認められていません。しかし、わずかながら空き枠が存在していることから、これを活用した国際貨物チャーター便運航のニーズが寄せられるようになり、今回の昼間運航可能となったようです。

羽田空港は都心に近い空港として利便性が高いため、物流面においても羽田空港が果たす役割は大きなものとなっています。

羽田空港の大きな特長として次の三つがあります。

①24時間運用可能な空港

離発着の時間制限を持つ成田空港を補完すべく、夜間でも航空貨物取扱いが可能

②都心に近い空港

都心からトラックで20～30分の位置にあり、京浜地区や臨海地区等へのアクセスが良い

③国内最大ハブ空港

国内航空網のハブ空港である事を活かし、地方発貨物を羽田空港経由で海外へ最短時間で納入するなどが期待できる

羽田空港が持つ特長を活かして、物流リードタイム短縮等の効率化に取組み、企業だけでなく日本の競争力強化が期待されています。

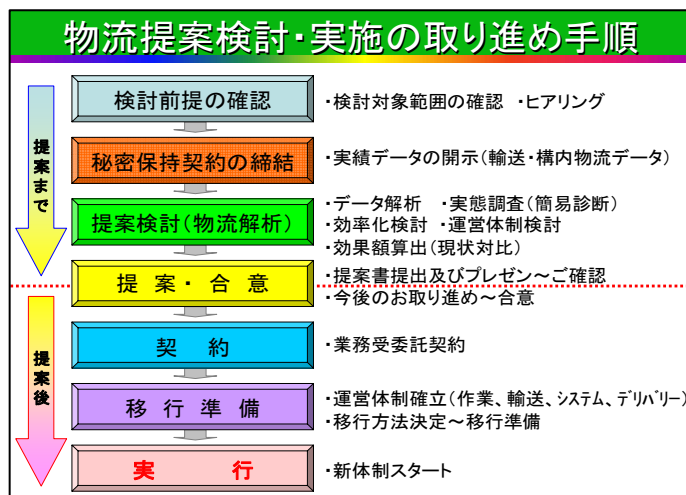
4. LIFE現場活動レポート Part5 「守谷営業所総元請化までの取り組み」

88～95号までの間で計4回にわたり、LIFE現場活動レポートとして「現地測定編①②」「データ収集・整理編」「ヒアリング編」の紹介を行いましたが、今回は第5回として、お客様提案後の取り組みについて「守谷営業所総元請化」を例にして現場レポートを紹介します。

今回の検討・提案実績は、茨城県守谷地区で輸送業務の元請けを行っているお客様に対し、包装業務の元請け提案を行い、全物流業務の安定化にご協力・貢献したものです。

下図に示していますように、お客様の仕事開始までの期間は、「提案を行うまで」と今回紹介致します「契約合意後の準備期間」の2つに大きく分けられます。契約合意後は実運用に向けてシステム構築など「運営体制の確立」「新体制への移行準備」を実施して行くことになりますが、移行準備は当社単独で実施出来るものではありません。お客様のご協力をいただきながら、一体となって新体制の整備を進めて行くことが大切になります。その中で今回は製造の一部となっています包装業務の元請けを問題なくスタートさせるために、お客様の関係部署に当社担当者を出向させていただき、実態の再整理を行いました。お互いの認識が一致した上で包装元請けを開始することにより、今まで以上にお客様の信頼・信用を受け業務を実施しております。

今後も現場に根付いた提案及び円滑な物流運営を行っていきますので 当社及びソリューション営業部を宜しくお願い致します。



5. 場所自慢 Part2 ～ 第24回 守谷営業所～

守谷営業所は、2008年7月に荷主の場内物流及び輸送部門の効率化を目的に、業務をスタートしました。

その後、2011年8月からは、包装部門の元請も開始し、包装～保管～出荷まで一連の物流業務を行なっています。

さて、守谷って何処にあるの？と思われる方も多いと思いますが、東京都心から約35km、千葉県との県境である茨城県南西部に位置し、旧市街地はかって城下町として栄えました。

2005年8月のつくばエクスプレスの開業により、秋葉原まで約45分と都内へのアクセスも良くなり、今では新興住宅街となり、2008年には「全都市住みよさランキング」で総合1位にも選ばれています。(東洋経済新報社算出)

この地域の観光名所としては、「一言主神社」があります。

全国的にはメジャーではありませんが、常総・古賀の地域では有名な神社のひとつで、幹線道路をドライブしていると「一生に一度の願いをかなえる」神社といった看板を見かけます。毎月第三日曜には骨董市も開催され、多くの参拝客で賑わっています。

また、1985年に開催された、つくば万博(正式名称: 国際科学技術博覧会)の跡地がある万博記念公園や約300に及ぶ研究機関・企業と約1,300人の研究者を擁する世界有数の学術・研究都市である筑波研究学園都市にも、つくばエクスプレスで約15分で行く事も出来ます。

是非、みなさんも一度、守谷に足を運んでみて下さい。



つくばエクスプレス守谷駅



一言主神社

6. 「IT pro EXPO 2011」基調講演レポート

ITのトレンドを体感する事、そして三菱総合研究所小宮山理事長の講演を伺いたく参加しました。

テーマは「日本再創造」で、同氏が参画する「プラチナ社会（※地球環境問題を解決し、高齢者が元気に活動できる社会）」の理念も織り込み、日本型の「尊敬される先進国」への転換方法を熱く語られておりました。ポイントは、21世紀は20世紀の延長線上にあるのではないこと。「エネルギー消費量を減らして経済成長する」という二律背反するテーマをこなす、これは過去の公害の克服（北九州市、隅田川等）や省エネ型機器の開発等、課題に対し「和」を持ち官民一体で一定の規制の下に取り組み、成果をあげた日本型モデルが以下2点から今後世界をリードする、というものでした。

①ITがキー：普及型需要は必ず飽和する。車は先進国では1人当たりの所有台数が0.5台で既に飽和。中国でも今後5年で先は見えてくる。「グリーン」「シルバー」向け等創造型需要の開拓・育成とともに、ビジョンを共有し、ITをいかに活用し「ものづくり力」「文化力」を出していくかが今後重要。

②エネルギー効率の革新的向上(ビジョン2050年)：自動車は5～10倍。セメントは技術移転で世界的に効率改善(トンあたり2000MJ)となる。金属はリサイクル化で3倍程度となる。給湯エネルギーはヒートポンプ技術向上で8割減少する等、日本発巨大な新市場創出の可能性あり。

当日は、スマートフォン&タブレット展も見学し、顧客との「共創」的な開発、ビジネスやプライベートのマルチデバイス化、クラウドコンピューティング、NO・サーバー、NO・Eメール等次世代を覗いている様。洗脳？されて職場に戻ると、10年以上も前の仕事のやり方をしているような錯覚(錯覚ではなく「これぞ既に現実だ!」というのが今回の展示会の趣旨と思われる)に陥りました。

7. モンテカルロシミュレーション※による戦略的リスク定量化セミナーレポート

当社では、三菱化学社開発研究所の最適化技術チームと連携をとり、適正在庫ソフトや物流最適化ツールを開発し運用しておりますが、ツールの基となる「シミュレーション」ソフトを開発販売しています PALISADE社のセミナーが行われましたので参加しました。

PALISADE社が販売している「@RISK」というソフトが、先述しました三菱化学社開発研究所が開発した適正在庫ソフトの中で使用されています。このソフトは、「リスク」と「不確実性の分析」をシミュレーションするもので、EXCELと親和性が深く使いやすいソフトです。使用されている産業も、金融、株式、保険、エネルギー、医薬など多岐に渡っています。

当日のセミナーには、保険業界、学術関係者、システム会社等の方々が多数出席されておりました。

セミナーでは三菱化学社の適正在庫ツールの紹介や、保険会社のリスク分析の適用例の発表があり、盛んな意見交換が行われ、各業界におけるリスク管理に対する意識の高さをヒシヒシと感じました。またこのソフトの人気を再認識する機会になりました。

今後は、これまで以上に三菱化学社との協力体制を強化し、シミュレーションによる最適化ツールの開発と利用に取り組んでいきたいと思っております。

※乱数を用いる数値シミュレーションの総称



ソリューション営業部 湯村 恭司

猛暑+電力使用制限令による、過酷な夏が終わり、過ごしやすい季節になりました。

9月は日本を横断した台風12号で、日本でも大雨による多大な被害を被りましたが、タイでは10月に7月よりの長期的な大雨による洪水が発生し、その被害は、タイ国民だけではなく、現地に入居している日系企業も操業停止を余儀なくされるなどで、その数はなんと300以上との事です。もはや海外での災害も他人事では済まされなくなっていますね。被害が大きくなる要因は、雨が長期間降り続ける事で、上記2つにも共通しています。冬には、おそらく電力使用制限が発令されると思われます。「節電」による環境への配慮は、我々の生活にとって不可欠なものとなりました。